

# 貸借対照表

(平成29年3月31日現在)

(単位:千円)

科目	金額	科目	金額
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
固定資産	1,384,309 ※	固定負債	690,068
有形固定資産	1,130,045 ※	地方債	690,068
事業用資産	426,417	長期未払金	0
土地	0	退職手当引当金	0
立木竹	0	損失補償等引当金	0
建物	1,089,311	その他	0
建物減価償却累計額	△ 666,231	流動負債	185,382
工作物	9,983	1年内償還予定地方債	115,802
工作物減価償却累計額	△ 6,646	未払金	0
船舶	1,309	未払費用	0
船舶減価償却累計額	△ 1,309	前受金	0
浮標等	0	前受収益	0
浮標等減価償却累計額	0	賞与等引当金	69,986
航空機	0	預り金	△ 406
航空機減価償却累計額	0	その他	0
その他	0	負債合計	875,450
その他減価償却累計額	0	<b>【純資産の部】</b>	
建設仮勘定	0	固定資産等形成分	1,384,309
インフラ資産	0	余剰分(不足分)	△ 862,837
土地	0		
建物	0		
建物減価償却累計額	0		
工作物	0		
工作物減価償却累計額	0		
その他	0		
その他減価償却累計額	0		
建設仮勘定	0		
物品	1,635,439		
物品減価償却累計額	△ 931,810		
無形固定資産	0		
ソフトウェア	0		
その他	0		
投資その他の資産	254,264		
投資及び出資金	0		
有価証券	0		
出資金	0		
その他	0		
投資損失引当金	0		
長期延滞債権	0		
長期貸付金	0		
基金	0		
減債基金	0		
その他	0		
その他	254,264		
徴収不能引当金	0		
流動資産	12,612		
現金預金	12,612		
未収金	0		
短期貸付金	0		
基金	0		
財政調整基金	0		
減債基金	0		
棚卸資産	0		
その他	0		
徴収不能引当金	0		
資産合計	1,396,921	純資産合計	521,472
		負債及び純資産合計	1,396,921 ※

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

# 行政コスト計算書

自 平成28年4月1日  
至 平成29年3月31日

(単位:千円)

科目	金額
経常費用	1,440,254 ※
業務費用	1,432,836 ※
人件費	1,172,859
職員給与費	1,101,321
賞与等引当金繰入額	69,986
退職手当引当金繰入額	-
その他	1,552
物件費等	255,912 ※
物件費	99,827
維持補修費	-
減価償却費	156,084
その他	-
その他の業務費用	4,066 ※
支払利息	2,014
徴収不能引当金繰入額	-
その他	2,051
移転費用	7,417
補助金等	6,487
社会保障給付	-
他会計への繰出金	-
その他	930
経常収益	60,762 ※
使用料及び手数料	9,106
その他	51,655
純経常行政コスト	△ 1,379,492
臨時損失	-
災害復旧事業費	-
資産除売却損	-
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	-
資産売却益	-
その他	-
純行政コスト	△ 1,379,492

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

# 純資産変動計算書

自 平成28年4月1日  
至 平成29年3月31日

(単位:千円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	536,684	1,411,558	△ 874,874
純行政コスト(△)	△ 1,379,492		△ 1,379,492
財源	1,364,280		1,364,280
税金等	1,364,280		1,364,280
国県等補助金	-		-
本年度差額	△ 15,212		△ 15,212
固定資産等の変動(内部変動)		△ 27,249	27,249
有形固定資産等の増加		84,910	△ 84,910
有形固定資産等の減少		△ 156,084	156,084
貸付金・基金等の増加		43,925	△ 43,925
貸付金・基金等の減少		-	-
資産評価差額	-	-	
無償所管換等	-	-	
その他	-	-	-
本年度純資産変動額	△ 15,212	△ 27,249	12,037
本年度末純資産残高	521,472	1,384,309	△ 862,837

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

# 資金収支計算書

自 平成28年4月1日  
至 平成29年3月31日

(単位:千円)

科目	金額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	1,283,624 ※
業務費用支出	1,276,206 ※
人件費支出	1,172,313
物件費等支出	99,827
支払利息支出	2,014
その他の支出	2,051
移転費用支出	7,417
補助金等支出	6,487
社会保障給付支出	-
他会計への繰出支出	-
その他の支出	930
業務収入	1,381,116
税金等収入	1,364,280
国県等補助金収入	-
使用料及び手数料収入	9,106
その他の収入	7,730
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	-
<b>業務活動収支</b>	<b>97,493 ※</b>
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	84,910
公共施設等整備費支出	84,910
基金積立金支出	-
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	-
その他の支出	-
投資活動収入	-
国県等補助金収入	-
基金取崩収入	-
貸付金元金回収収入	-
資産売却収入	-
その他の収入	-
<b>投資活動収支</b>	<b>△ 84,910</b>
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	78,399
地方債償還支出	78,399
その他の支出	-
財務活動収入	59,800
地方債発行収入	59,800
その他の収入	-
<b>財務活動収支</b>	<b>△ 18,599</b>
<b>本年度資金収支額</b>	<b>△ 6,016</b>
<b>前年度末資金残高</b>	<b>14,539</b>
<b>本年度末資金残高</b>	<b>8,523</b>
<b>前年度末歳計外現金残高</b>	<b>4,495</b>
<b>本年度歳計外現金増減額</b>	<b>△ 406</b>
<b>本年度末歳計外現金残高</b>	<b>4,090 ※</b>
<b>本年度末現金預金残高</b>	<b>12,612 ※</b>

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

# 行政コスト及び純資産変動計算書

自 平成28年4月1日  
至 平成29年3月31日

(単位:千円)

科目	金額		
経常費用	1,440,254 ※		
業務費用	1,432,836 ※		
人件費	1,172,859		
職員給与費	1,101,321		
賞与等引当金繰入額	69,986		
退職手当引当金繰入額	-		
その他	1,552		
物件費等	255,912 ※		
物件費	99,827		
維持補修費	-		
減価償却費	156,084		
その他	-		
その他の業務費用	4,066 ※		
支払利息	2,014		
徴収不能引当金繰入額	-		
その他	2,051		
移転費用	7,417		
補助金等	6,487		
社会保障給付	-		
他会計への繰出金	-		
その他	930		
経常収益	60,762 ※		
使用料及び手数料	9,106		
その他	51,655		
純経常行政コスト	△ 1,379,492		
臨時損失	-		
災害復旧事業費	-		
資産除売却損	-		
投資損失引当金繰入額	-		
損失補償等引当金繰入額	-		
その他	-		
臨時利益	-		
資産売却益	-		
その他	-		
純行政コスト	△ 1,379,492		
財源	1,364,280		
税収等	1,364,280		
国県等補助金	-		
本年度差額	△ 15,212		
固定資産等の変動(内部変動)		金額	
有形固定資産等の増加		△ 27,249	27,249
有形固定資産等の減少		84,910	△ 84,910
貸付金・基金等の増加		△ 156,084	156,084
貸付金・基金等の減少		43,925	△ 43,925
資産評価差額	-	-	-
無償所管換等	-	-	-
その他	-	-	-
本年度純資産変動額	△ 15,212	△ 27,249	12,037
前年度末純資産残高	536,684	1,411,558	△ 874,874
本年度末純資産残高	521,472	1,384,309	△ 862,837

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

## 1. 重要な会計方針

有形固定資産等の評価基準及び評価方法

開始時における有形資産等の評価は、原則として取得原価としています。

有価証券等の評価基準及び評価方法

該当ありません。

有形固定資産等の減価償却の方法

定額法を採用しています。

引当金の計上基準及び算定方法

賞与等引当金については、翌年度6月支給予定の期末・勤勉手当のうち、全支給対象期間に対する本年度の支給対象期間の割合を乗じた額を計上しています。

リース取引の処理方法

所有権移転外ファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っています。

資金収支計算書における資金の範囲

地方自治法第235条の4に規定する歳入歳出に属する現金としています。

その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

①有形固定資産の取り扱い

取得価格100万円以上の重要物品を資産として計上しています。

②資本的支出と修繕費の区分基準

定性的な検討において判断しています。

③消費税及び地方消費税の会計処理

税込み方式により処理しています。

## 2. 重要な会計方針の変更等

初年度のため変更ありません。

## 3. 重要な後発事象

該当事項ありません。

## 4. 偶発債務

該当事項ありません。

## 5. 追加情報

対象範囲（対象とする会計名）

一般会計

一般会計等と普通会計の対象範囲等の差異

当組合の普通会計は一般会計のみで構成されています。

出納整理期間について、出納整理期間が設けられている旨及び出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としている旨

地方自治法第235条の5の規定により出納整理期間が設けられているため、当会計年度に係る出納整理期間中における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

表示単位未満の金額は四捨五入することとしているが、四捨五入により合計金額に齟齬が生じる場合は、その旨

千円未満を四捨五入しているため、合計金額が一致しない場合があります。

地方公共団体財政健全化法における健全化判断比率の状況

一部事務組合のため健全化判断比率を算定していません。

利子補給等に係る債務負担行為の翌年度以降の支出予定額

該当事項ありません。

繰越事業に係る将来の支出予定額

該当事項ありません。

その他財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項

該当事項ありません。

売却可能資産に係る資産科目別の金額及びその範囲

該当事項ありません。

減価償却について直接法を採用した場合、当該各有形固定資産の科目別または一括による減価償却累計額

事業用資産 674,186千円

建物 666,231千円

工作物 6,646千円

船舶 1,309千円

物品 931,810千円

減債基金に係る積立不足の有無及び不足額

減債基金は設置していません。

基金借入金（繰替運用）の内容

該当事項ありません。

将来負担に関する情報（地方公共団体財政健全化法における将来負担比率の算定要素）

一部事務組合のため算定していません。

自治法第234条の3に基づく長期継続契約で貸借対照表に計上されたリース債務金額

該当事項ありません。

基準変更による影響額の内訳

該当事項ありません。

純資産における固定資産等形成分及び余剰分（不足分）の内容

①固定資産等形成分

固定資産の額に投資その他の資産におけるその他（退職手当組合の積立額が退職手当債務を超過している分）を加えた額を計上しています。

②余剰分（不足分）

純資産合計額のうち、固定資産等形成分を差し引いた金額を計上しています。

基礎的財政収支

業務活動収支 97,493千円

支払利息支出 2,014千円

投資活動収支 △84,910千円

基礎的財政収支 14,602千円

既存の決算情報との関連性

資産・負債（ストック情報）及び非現金支出（現金支出を伴わないコスト）を発生主義で認識しています。

資金収支計算書の業務活動収支と純資産変動計算書の本年度差額との差額の内訳

業務活動収支 97,493千円

減価償却費 △156,084千円

賞与等引当金（増減額） △546千円

投資その他の資産（増減額） 43,925千円

純資産変動計算書の本年度差額 △15,212千円

一時借入金の増減額が含まれていない旨並びに一時借入金の限度額及び利子の金額

借り入れはありません。

重要な非資金取引

減価償却費 156,084千円

賞与等引当金 546千円

投資その他の資産 43,925千円